

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	佐賀市立兵庫小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	令和2年度は大きく5つの領域で9個の評価項目を設定し、全職員で年間を通して取組を行った。PDCAサイクルのもと継続的に実践を行ってきた結果、5つの取組内容がA評価で概ね達成できた。保護者の「兵庫小学校をよりよくするためのアンケート」からも、ほとんどの項目で90%以上の肯定的な回答が得られ、教育活動に対して高い評価を得ていると考える。また、学校評議員会において学校の現状や取組について説明をしたところ、すべての委員から肯定的な意見をいただき、2つの取組内容でB評価をA評価に変えていただいた。全職員が共通理解・共通実践のもと組織として取り組んできた成果だと考える。
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	夢に向かって前進！ 笑顔かがやく兵庫っ子 - 正しく かしく 美しく -
----------	-----------------------------------------

3 本年度の重点目標	①思いやりの心と規範意識の向上 ②確かな学力の定着 ③ふるさとを愛する子どもの育成
------------	-------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標

重点取組内容・成果指標				中間評価		最終評価		主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・夏季休業と10月校内研修で全国調査の結果と課題(改善点)について、全職員への共通理解を図った。冬季休業中、3学期に研修を行い、指標達成を目指し、授業の充実を図っていく。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は、92%だった。 ・全国調査や県調査の結果から共通課題を見出し、共通実践、マイプランにつなげることができた。	・学習部
	○家庭学習の充実	○学年に応じた家庭学習時間を達成した児童80%以上にする。	・家庭学習の手引き及び学習のルールを配布し、学校と家庭の両方で活用する。 ・年4回の「家庭学習がんばろう週間」を設け、家庭学習の習慣化を図る。	B	・保護者の理解と協力を得ながら1学期と2学期に家庭学習「がんばろう週間」を行うことができた。また、家庭学習の手引き及び兵庫小学習のルールを配布・周知し、学校と家庭の両方で活用することができた。	A	・家庭学習の手引き及び学習のルールを配布し、学校と家庭の両方で活用できるようにした。学習のルールについては、年に2回アンケートを基に学習道具や態度について考えさせたり、3学期には全校一斉に放送を聞きながら学習道具を確認する機会を設けた。 ・年4回、「家庭学習がんばろう週間」を設け、家庭学習の習慣化を図った。また、振り返りシートを児童に記入させたり、振り返りシートの分析結果を保護者に伝えたりすることで、啓発を行った。	・学習部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上にする。 ・「ほかほか言葉」を使う ・友達には「さん」をつけるなど	・人権教室や兵庫小児童をよりよく育てるためのアンケートを実施する。 ・ふれあい道徳教育として、参観日に道徳の授業を公開する。	B	・人権教室を開き、友だちや周囲の人たちを大切に育てる心育成に努めた。また、生活の月目標に「友だちにさんをつけてよう」として、全校的に取り組んだ。 ・ふれあい道徳教育として、11月の参観日に道徳の授業を公開した(2月の参観日も予定している)。	B	・学期に一回人権教室を開き、友だちや周囲の人たちを大切に育てる心育成に努めた。 ・「ふれあい道徳教育」として、参観日に道徳の授業を公開する予定だったが、参観日が中止になったことで授業公開できないクラスもあった。	・ふれあい部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ等問題行動が起きたとき組織的対応ができていると回答した教師90%以上にする。	・毎月児童及び保護者へのアンケートを実施する。 ・始業式の日に「レインボー作戦」の指導を全校で行い、その後各学級で指導を行う。 ・教育相談週間を設け、子どもの心の様子を把握する。	B	・毎月、児童及び保護者へのアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めた。 ・いじめ等の事案を発生後は、必ず、管理職、学級・学年担任、生徒指導主任等の組織で対応を図ってきた。 ・2学期に教育相談週間を設け、学習や生活、友だち関係などで悩みをもつ子どもに寄り添った対応に努めた。	A	・毎月、児童及び保護者へのアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めたことで、早期解決に繋がった。 ・いじめ等の事案を発生後は、必ず、管理職、学級・学年担任、生徒指導主任等の組織で対応し、連携を強化し、対応を図ってきた。 ・始業式の日に「レインボー作戦」の指導を全校で行い、児童に意識付けを行うことができた。 ・2学期に教育相談週間を設け、学習や生活、友だち関係などで悩みをもつ子どもに寄り添った対応に努めた。	・ふれあい部
	○特別支援教育	○学級に配慮が必要な児童が在籍する場合「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいた支援を行う。	・教育支援会議を適宜開いたり、校内研修で児童の支援方法についての共通理解を深めたりして、具体的な支援に生かす。 ・スクールカウンセラーの面談や大和特別支援学校巡回相談を活用し、児童の実態把握と共に、その支援の在り方、保護者への働きかけ、関係機関との連携に生かした。	・特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援会議や校内研修を開催し、支援を要する児童への働きかけなどについて共通理解を図った。 ・6年生の中学校進学に向けて大和特別支援学校巡回相談を活用し、児童の特性を客観的な視点で捉え、適切な支援方法のアドバイスを受けることができた。	B	・特別支援教育コーディネーターを中心に、校内支援会議や校内研修を開催し、支援を要する児童への働きかけなどについて共通理解を図った。 ・6年生の中学校進学に向けて大和特別支援学校巡回相談を活用し、児童の特性を客観的な視点で捉え、適切な支援方法のアドバイスを受けることができた。	A	・校内支援会議を計画的に行い、スムーズに話し合いをすることができた。今年の校内研修は、コーディネーターが行った。 ・6年生の中学校進学に向けて大和特別支援学校巡回相談を活用し、児童の特性を客観的な視点で捉え、適切な支援方法のアドバイスを受けることができた。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●休み時間には、外に出て元気に遊ぶ児童を育てる。	・学級や各委員会の計画により、外遊びの機会を多く設けるようにする。 ・生活重点月目標を設定し、集会の講話や掲示資料を活用した指導を行う。	A	・日頃から各学級で「みんなで遊ぼう」を企画したり、担任は、外遊びを奨励したりすることで、中休みや昼休みには、外で元気よく遊ぶ姿がよく見られた。 ・委員会を中心に「もみじマラソン」を企画し、児童にめあてをもって運動に取り組ませた。	A	・年間を通して、各学級で「みんなで遊ぼう」を企画したり、計画的に体育の授業を行ったりすることで、外で元気よく遊ぶ姿がよく見られた。 ・委員会を中心になわとび台の設置やボール点検など外遊びを奨励するための環境を整えることで、より外遊びを活性化することにつながった。	・活動部
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上にする。	・「給食便り」で食育に関する内容を提供する。 ・年2回の「早寝・早起き・朝ご飯実践カード」を実施し、朝食の必要性を喚起する。	B	・「給食だより」を毎月発行し、給食委員は給食時に食に関する放送を行い、児童や家庭に食の大切さについて発信した。 ・保健室で生活リズムに関するアンケートを実施し、その結果を基に学級活動などで食と健康について授業を行った。今後も継続して実践する。	A	・年間を通して、給食時間に栄養職員が作成した資料(献立、栄養等)を基に各学級で指導を行った。 ・「早寝・早起き・朝ご飯実践カード」を実施するとともに、食の大切さについての指導を各学級で行った。その結果、「健康に食事は大切である」と回答した児童は100%で、目標を達成できた。	・活動部 ・給食担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・タイムマネジメントを行うと共に、毎週金曜日を定時退勤日と設定する。 ・掲示板機能を活用し、連絡会の内容を効果的に伝達する。	B	・時間外勤務時間は、月平均36時間以上で上限を遵守することはできた。業務改善に関するこれまでの取組を継続するとともに、ワークライフバランスを意識した日々を送ることができるよう研修や常日頃の声掛け等を行いたい。	B	・業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減に向けて、会議や連絡会等の時短、毎週金曜日の定時退勤日、職員室環境の向上(7ルール)等を行った。 ・職員評価で、「働き方改革に向けて、タイムマネジメントを意識した取組を行っている」と回答した職員は、70%であった。	・主幹教諭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
◎志を高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童85%以上にする。 ○体験や見学、授業後のアンケートで、肯定的な回答をした児童90%以上にする。	・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や授業では、児童に地域の自然、歴史、文化、公共施設のよさ等の理解を促進するとともに、活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・ふるさと学習支援事業を活用した学習に積極的に取り組み、体験活動や見学を行う。	B	・地域の人材活用として、総合的な学習の時間を中心に体験活動や見学などを実施した(5年生総合的な学習、4年生グループ学習・ふるさと学習、3年生高齢者体験等)。 ・学校だよりや学校評議員会等で本校の目標について説明するとともに、目標達成に向けてPTA、地域社会と連携して取り組んでいくことを伝えた。	B	・総合的な学習の時間を中心に地域の人材を活用した授業(体験活動、見学、調査・報告等)年間を通して行うことができた。児童は、「楽しく学習できた」、「計画的に学習できた」、「分かるまで調べたり、友だちに尋ねたりした」などの様子が見られた。 ・学校だよりやホームページ等で本校の目標や教育活動について紹介することができた。コロナ禍のため、行事の精選、内容の見直しなどを行ったが、PTA、保護者との連携も図ることができた。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	いじめ問題や不登校児童支援等への対応については、管理職、学級及び学年等関係職員で早期に対応を図った。今後も、いじめ問題及び不登校児童支援に対して、組織で対応を図っていく。 ・コロナ禍における授業及び学校行事等をどのようにしていくかが課題であった。今後は、端末やIWBなどのICTの活用を含めた教育活動をICT推進リーダーや各主任等を中心に推進していく。 ・本年度の重点目標について、保護者アンケート及び職員アンケートでは、概ね達成できたとの成果が表れていた。今後は3部会を中心として、職員の創意と工夫を生かした取組の充実を図るとともに、職員研修の充実にも努めたい。
--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------